

4 JAK 阻害はアトピーを救うか

Do JAK inhibitors save atopic dermatitis?

佐伯秀久

SAEKI, Hidehisa

日本医科大学大学院皮膚科学 / 皮膚粘膜病態学大学院教授

Summary

シグナル伝達系である Janus kinase (JAK) 経路はアトピー性皮膚炎 (AD) の病態に深く関与している。2020年1月にJAK阻害外用薬であるデルゴシチニブ軟膏が成人(16歳以上)のADに対して保険適用された。また2020年12月にJAK1/2阻害内服薬であるバリシチニブ錠が成人のADに対して保険適用となった。さらに現在、JAK1阻害内服薬が承認申請中である。デルゴシチニブ軟膏はステロイド外用薬、タクロリムス軟膏に次ぐ第3の抗炎症外用薬として期待される。また、JAK阻害内服薬も効果の高さから難治例に対する治療薬として期待される。今後は長期の安全性データの蓄積が待たれる。

JAK 阻害外用薬

2020年1月にJAK阻害外用薬であるデルゴシチニブ軟膏0.5%が保険適用された。対象は成人(16歳以上)のアトピー性皮膚炎患者であり、1日2回、適量を患部に塗布する(1回の塗布量は5gまで)。

JAK 阻害内服薬

バリシチニブ錠はJAK1とJAK2を阻害する内服薬であり、2020年12月に成人のアトピー性皮膚炎に対して保険適用された。2021年1月現在、JAK1を選択的に阻害する2剤の内服薬が国内承認申請中である。

KEY WORDS

アトピー性皮膚炎 / JAK 阻害外用薬 / JAK 阻害内服薬 / デルゴシチニブ